

鈴鹿市立保育所・幼稚園施設整備に関する基本方針（改定版）（案）に係る意見公募手続の結果一覧

■募集期間 令和7年1月20日から7年2月20日まで

■提出者 2人 ※市に対する一般的な意見として取り扱うものは含まない。

■意見数 3件 ※市に対する一般的な意見として取り扱うものは含まない。

NO.	ページ	意見等	修正の有無	市の考え方
1	全般	近隣市町や全国的に、公立のこども園が増えています。実際、こども園(幼稚園)で預けていても親が仕事を始めたときや産前産後や育休のときに転園せずに同じこども園(保育園)に通うことができたり、園児の数が増えることにより子どもたちの活動も広がったりとメリットがたくさん考えます。共働きが多い時代だからこそニーズがあると思います。鈴鹿市はどうしてこども園をつくる話が出てこないか疑問を感じます。	無	公立認定こども園の設置につきましては、老朽化等の理由により既存の公立保育所の建替えが必要となった際に、併せて周辺の公立幼稚園との複合化の検討も行い、可能な場合は認定こども園として整備する予定であり、本方針にもこの旨記載しています。 今後も、引き続き保護者ニーズの把握に努め、各就学前施設の利用者数の推移を注視しながら、国が示す新しい制度や本市における様々な状況も踏まえた上で、公立認定こども園の設置についての検討を続けます。また、既に認定こども園を運営している私立の就学前施設とも連携し、多様なニーズへ適切に対応することで、本市の教育・保育環境の充実を図ります。

NO.	ページ	意見等	修正の有無	市の考え方
2	3	「3年保育を3園で実施したことにより保護者ニーズには概ね応えることができる。」とありますが、これは市民のニーズに応えられていると言い切ることはできないと考えます。実際 R2年度の再編で公立幼稚園が5園に集約されたことで、本当は公立幼稚園に通いたくても、地元や近辺になくなったので入園を諦めた家庭もあります。公立幼稚園のよさは地域に根差した教育、そして小学校に向けてギャップのない接続が持ち味ですが、簡単に廃園になり、実際に私が住む西部の市民は加佐登幼稚園が廃園になって不安を感じました。また、5 園の幼稚園で同時期に3歳保育を行わなかったため、年中からの神戸幼稚園や飯野幼稚園では入園児数が減少しています。さらに今後公立幼稚園の数が減ることになりかねないと危惧しています。早急にすべての公立幼稚園で3年保育を行ってほしいです。そうすることで保護者のニーズに応えることにつながっていくのではないのでしょうか。	有	公立幼稚園における3年保育については、前方針に基づき、まずは実施に向けた人員配置の最適化を図るため、地域の実情や児童数の推移、各施設の状況等を踏まえ、公立幼稚園の集約化を進めた上で、適正な実施時期や実施施設について検討を行ってきました。 そして、令和5年度に2園で開始し、令和6年度には実施施設を1園増やし、現在3園で運用しているところです。 今後は、これまでの募集状況や事業効果等の検証を行い、引き続き保護者ニーズの把握にも努めながら、あらためて児童数の推移、各施設の状況等を勘案した上で、3年保育の実施について検討していくことから、「7(3)公立幼稚園の今後の方向性」において、この旨を示すよう修正します。
3	3 27 30	「保護者ニーズには概ね応えることができる」とあるが、3歳児の入園状況(出願状況)から見ると、逆に現在での3園では不足していることが分かるはずである。共働き、非正規雇用の保護者が増え3年保育の幼稚園へのニーズが高まっていることは理解されている様だが、現状では妥協して保育園に入れた or 仕方なく私立幼稚園に入れた(授業料は無償でも制服代や行事費などより負担が大きいと感じている)or かなり時間をかけて遠距離の園に通わせているパターンを数多く目にしている。預かり保育の実施だけではなく、3年保育も変化するニーズや制度への対応に備える＝早急に実現する必要がある。 やはり、鈴鹿市は面積の大きい市であり、既に公立幼稚園5園に集約した時点で不便を感じるどころ、特に河曲、神戸、飯野、牧田地区は近年子育て世帯が増加しているにもかかわらず、3年保育が未だ実施されていないのが疑問。例えば石薬師や加佐登、一ノ宮から神戸幼稚園に通っている園児はいるが、さらにそこを越えて玉垣幼稚園に通わせることは不自然で非合理的である。現に神戸地区の3歳児が抽選で玉垣幼稚園に入り、落選した玉垣校区の子どもが、神戸の私立幼稚園に通う羽目になった例もあり、矛盾を感じる。		